

(文責：井桁正昭)

千葉県解体工事業協同組合
代表理事 稲葉清一氏

NO.8 解体

組合事務所にて、お話を伺いました。



稲葉代表理事 漢那理事 須田広報委員長

◆貴組合はどのような団体ですか

名称：千葉県解体工事業協同組合
設立は1985年12月10日です。
組合員は現在41企業です。
他に賛助会員 36企業
ネットワーク会員15企業
役員数 理事13名、監事2名です。



ワイヤーソーイング工法



アスベスト除去工事

高度解体工事

◆解体業界の情勢はいかがですか

仕事量は多くなっています。景気の波もあると思いますが昭和40年50年ごろの建物が、今建て替え時期を迎えています。一口に解体といっても、範囲は広いです。木造の解体から、鉄骨、SRC、プラント他さまざまです。また古民家などに多くみられる、リホーム、リユース、転用は部分解体となることが多いです。昨年法改正があり、解体業が独立業種として認められたのも需要の高まりによるものと思います。仕事の仕方も、社会の変化やニーズに従い年々高度になっています。アスベストは勿論のこと、分別処分の徹底、騒音振動、粉塵発生の低減などが高度化しています。組合として、これら社会の要請にこたえていかなければならないと考えます。

◆若い層の育成はどのようにされていますか

青年部もありますが、個々の会員企業に任されています。若い人たちを採用してもなかなか定着してくれません。しかし、そのような状況でも、重機の操作にあこがれをもってこの業界に来てくれる若者もいます。センスの良い方はセカンドオペレーター、トップオペレーターへとなっていきます。一度、この仕事に就いたのですから、この道で大成してほしいと思っています。3Kと呼ばれる業種ですが、それだけに可能性もあります。今、世の中が我が業界を必要とし、育てようとしています。

(女性の進出はいかがですか)

この業界は確かに男性型です。しかし、積み込み運搬は女性でもできます。現に女性も働いています、私たちが女性が増えてくれることを歓迎します。

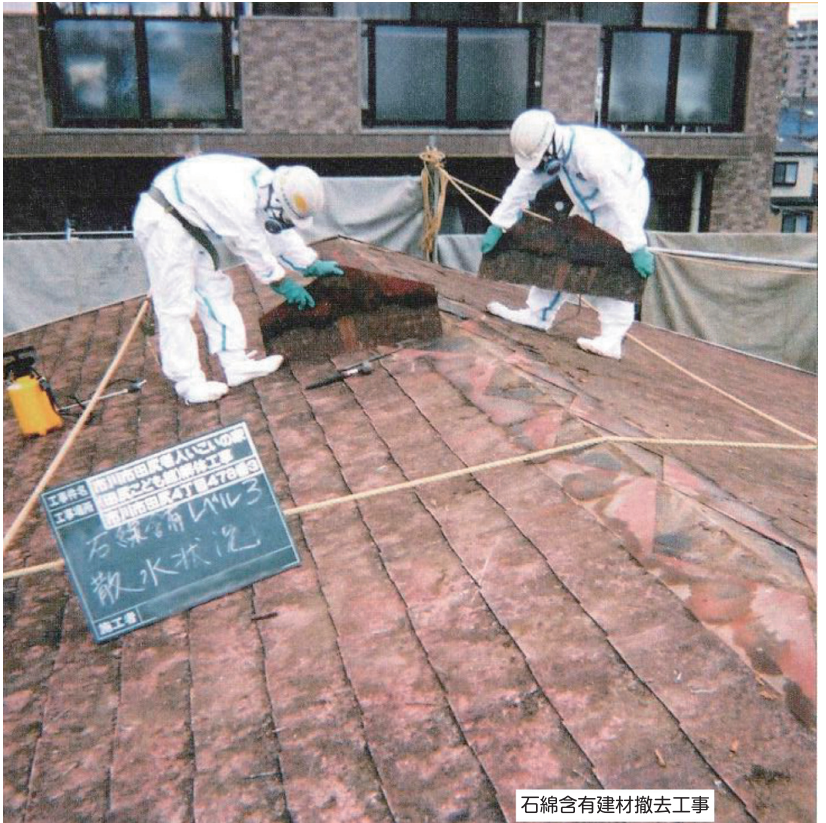
◆恒例となっているのですが設計者に対してなにかご意見をとにかく、一番の困りごとは複合建材が多いことです。今、ますます分別の徹底が求められます。分別できない建材は管理型として処理区分され大きな処分コストが掛かることになります。異種材の圧着状複合建材には、いつも閉口します。

できるだけ手作業で分離していますが、能率は最悪です。これは建材メーカーにも考えていただきたいことですね。新築時点で、その建物が寿命を終えたときのことを考えて建設することが、必要な時代になっていると思います。設計の時点でここら辺りに配慮くだされば、大変進歩的なんですけどね。

余談ですが、古民家など土塗り壁を解体したとき、わらと土とを分離することになっているんです。分離しない場合は、管理型として処分しなくてはいけないことになっています。わらも土も自然のもので、それが規定なんです。



木造解体（小屋組み取り壊し状況）



石綿含有建材撤去工事



木造解体（屋根の取り壊し状況）

木造解体

アスベスト含有建材の解体



チップ工場（木くず再生利用）



焼却処理施設



管理型最終処分場



再生砕石中間処理施設



安定型最終処分場

各所施設

ねらい

私達建築士は、建築の設計と監理の業務を通して世の中に残るもの、つまり“もの『技』づくり”に日々取り組んでいます。良いものを造るには、当然のこととしてその細部にまで、精通していなければなりません。

しかし、設計者はその業務の性質上、施工者にその意思を伝えるところまでで、実際に“もの『技』づくり”に携わっている職人との交流はほとんどないのが実情であり、実際のものに触れ体感する機会には乏しいと言えます。“もの『技』づくり”を考えたとき、これで良いのでしょうか。建築工事に従事する各職人の仕事に対する十分な理解と知識の習得は、建築に深い洞察力を求められる建築士の仕事に欠かすことはできません。そこで今後、ものづくりの最前線の方々の団体と積極的に交流をはかり、意見をお聞きし、生きた情報を得ることにより、よりよい作品創り（“もの『技』づくり”）に活かしていきたいと考えております。

公益社団法人 千葉県建築士事務所協会